

内村鑑之著

求安錄

東京

警醒社書店

[中扉]

Dante has been here ; as neither I nor any of the Brothers recognized him.
I asked him what he wished. He made no answer, but gazed silently upon
the columns and galleries of the cloister. Again I asked him what he wished
and whom he sought ; and slowly turning his head, and looking around upon
the Brothers and me, he answered, * Peace! — Hilary.

自序に代ふ

口あひて賜みせる柘榴かな

芭蕉翁

爾（正に）歸ん時其兄弟を堅くせよ。

基督（路可^{ルカ}二十二章三十二節）

我これらの望み既に得たりと言に非ず、亦すでに全せられたりと言に非ず、或は取ことあらんとて我たゞ之を追
求む、キリスト之を得さんと我を執へ給へる也。兄弟よ我みづから之を取りと意はず、惟この一事を務む、即
ち後に在ものを忘れ前に在るものを望み、神キリストイエスに由て上へ召て賜ふ所の褒美を得んと標準に向ひて

進なり。

保羅（「ビ
リビ」腓立比書三章十二、十三、十四節）

明治二十六年六月七日

東肥託摩ヶ原流寓に於て 内村鑑三

中扉 和訳

ダンテはここに来ていたようだ。私も兄弟たちも誰も彼を認識できなかった。私は彼に何の望みがあるか尋ねた。彼は何も答えず、黙って回廊の柱と回廊を見つめていた。もう一度私は彼に何の望みがあり、誰を探しているのか尋ねた。すると彼はゆっくりと頭を回し、兄弟たちと私を見回し、「平和！」と答えた。——ヒラリー

自序に代ふ 現代語訳

あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。

（ルカの福音書二十二章三十二節）

私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして追求しているのです。そして、それを得るようにと、キリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。兄弟たち。私は、自分がすでに捕らえたなどと考えてはいません。ただ一つのこと、すなわち、うしろのものを忘れ、前のものに向かつて身を伸ばし、キリスト・イエスにあって神が上に召してください、その賞をいただくために、目標を目指して走っているのです。

（ピリピ人への手紙三章十二〜十四節）

求安録目次

上の部

悲嘆

内心の分離 Internal Schism

脱罪術 其一 リバイバル

脱罪術 其二 學問

脱罪術 其三 自然の研究

脱罪術 其四 慈善事業

脱罪術 其五 神學研究并に傳道

忘罪術 其一 「ホーム」

忘罪術 其二 主樂說

忘罪術 其三 樂天主義

下の部

罪の原理

喜の音

信仰の解

樂園の回復

贖罪の哲理

最終問題